

城西人文研究 既刊総目次

創刊号（1973年）

| | |
|-------------------------|------|
| 序 | 武市春男 |
| 『城西人文研究』の創刊に際して | 蒔田栄一 |
| ニーチェとキリスト教倫理 | 木阪昌知 |
| マヤの石造建築における「持送りアーチ」について | 貞末堯司 |
| 意味と認識 | |
| ——パース研究（4）—— | 西勝忠男 |
| シーハラヴァットパカラナ訳註（Ⅱ） | |
| ——第1章 第3・4・5話—— | 森祖道 |
| 独白と対話 | |
| ——ジョイスとペローの距離—— | 茂呂公一 |
| ポーにおけるグロテスクとアラベスク | 水田宗子 |
| 内村鑑三おぼえ書き（その八） | 岩谷元輝 |
| 人間の社会的構造と疎外 | 松浦孝作 |
| 『靈魂の系図』について | |
| ——Carlyle を中心として—— | 松田福松 |
| カフカの世界 | |
| ——非ユダヤ的ユダヤ人—— | 山口 勲 |

第2号——蒔田栄一教授追悼論文集——（1974年）

| | |
|-----------------------------|-------|
| 巻頭言 | 武市春男 |
| バスク語の単文における語順の文体的価値について | 堀田郷弘 |
| 内村鑑三おぼえ書（その九） | 岩谷元輝 |
| 精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造（1） | 木阪昌知 |
| 『サムラー氏の惑星』試論 | 森哲夫 |
| 「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考 | 太田 広 |
| 宗教史にみる日本的均衡のメカニズム（Ⅳ） | |
| ——マーケティングと宗教の関連において—— | 渡辺好章 |
| 遠近法と身体性について | 山口 勲 |
| 同一性（アイデンティティ）に関する諸問題——その一—— | 帆足喜与子 |
| 涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻—— | 黄色瑞華 |

| | | | | |
|-----------------------|---|---|---|---|
| 「紙」以前の書写の用材について | 井 | 口 | 大 | 介 |
| 故蒔田栄一教授 追悼 | 松 | 田 | 福 | 松 |
| ああ蒔田栄一先生よ | 伊 | 部 | 政 | 一 |

第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アンデス古代文明の諸問題 | 貞 | 末 | 堯 | 司 |
| 発見の哲学——パース研究（6）—— | 西 | 勝 | 忠 | 男 |
| 首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較—— | 田 | 村 | 正 | 夫 |
| 鉄齋と華山 | 小 | 野 | | 浩 |
| 日本民主主義研究序論 | 森 | 田 | 昌 | 幸 |
| 遠近法と身体性——その哲学的意味—— | 山 | 口 | | 勲 |
| Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i> | 水 | 田 | 宗 | 子 |
| 『おらが春』の素材 | 黄 | 色 | 瑞 | 華 |
| 日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで—— | 堀 | 田 | 郷 | 弘 |
| ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識—— | 茂 | 呂 | 公 | 一 |
| 作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”—— | 萩 | 原 | 博 | 子 |
| 司馬遷論 | 黒 | 羽 | 英 | 男 |
| 三代日本主義の系譜について | 松 | 田 | 福 | 松 |

第4号（1977年）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 論理の自律性について——パース研究（7）—— | 西 | 勝 | 忠 | 男 |
| カントの「定言命法」 | 山 | 口 | | 勲 |
| 中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした—— | 貞 | 末 | 堯 | 司 |
| クレアラ・アン・ペイター覚え書 | 萩 | 原 | 博 | 子 |
| 『教育者としてのショーペンハウアー』から ——ニーチェと自然—— | 河 | 内 | 信 | 弘 |
| アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動 | 堀 | 田 | 郷 | 弘 |
| アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学—— | 陶 | 山 | | 曠 |

冷たき牧歌

| | |
|------------------------|------|
| ——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて—— | 永井豊実 |
| 『おらが春』の素材（続） | 黄色瑞華 |
| 歌人「安江不空」 | 小野浩 |

第5号（1978年）

| | |
|---|------|
| 南アメリカの考古学史 | 貞末堯司 |
| Manorathapūrāṇi 源泉資料年代論 | 森祖道 |
| 大学英語教育の問題点（上） | 鮫島久男 |
| クレアラ・アン・ペイター覚え書（Ⅱ） | 萩原博子 |
| 『シンベリン』、皮肉な遊戯 | 戸所宏之 |
| カフカ研究の視座を求めて | 山口勲 |
| 東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説（1960年2月22日）と 東京羽田空港におけるインタビュー（2月29日） | 堀田郷弘 |
| アンドレ・ジッドの方法（Ⅲ） | 陶山睦 |
| ニーチェと自然（一） | 河内信弘 |
| 『おらが春』第一話の設定をめぐる | 黄色瑞華 |

第6号（1979年）

| | |
|---|-----------------|
| ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために | 山口勲 |
| パーソナリティテストとしての SCT に関する一考察 ——特に応用とその解釈をめぐる—— | 駒崎勉 |
| ジェイムズ・ジョイスの手法について（1） ——我国におけるジョイス評価の推移—— | 茂呂公一 |
| A Textual History of Walter Pater's <i>Renaissance</i> | Hiroko Hagiwara |
| マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」—— | 小野昌 |
| ニーチェと自然（二）——『悲劇の誕生』—— | 河内信弘 |
| 全集本『おらが春』について | 黄色瑞華 |

第7号（1980年）

| | |
|--------------------------------|------|
| ヤスパースとフッサール ——精神病理学の哲学的基礎—— | 山口勲 |
| PANTUN——puisi dan puisi rupa—— | 黄色瑞華 |
| 国際水利法に関する一考察 | 土屋生 |

ジェイムズ・ジョイスの手法について（Ⅱ）

——我国におけるジョイス評価の推移——……………茂 呂 公 一

The Development of the Audiolingual Approach

——Trends in Language Methodology in the United States——

……………Fumiko Tamura

『空騒ぎ』の冥と光——像りの力学——……………戸 所 宏 之

「エンディミオン」における映像のあり方……………永 井 豊 実

『ヴェニスの商人』における Venture について……………小 野 昌

カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉——……………村 岡 正 明

アンドレ・ジッドの方法（Ⅳ）——生命の美学——……………陶 山 睦

「騎士と死神と悪魔」

——『悲劇の誕生』におけるデュラーの銅版画をめぐって——

……………河 内 信 弘

第 8 号（1981年）

ウィトゲンシュタインのケムブリッジ……………山 口 勲

アメリカ文化論（Ⅰ）……………小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三

シャルル・モーロンの「精神批評」（1）……………越坂部 則 道

「高き山々の頂きから」

——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み——……………河 内 信 弘

思想家としてのニーチェ……………小 野 浩

『四山蘂』の俳論……………黄 色 瑞 華

第 9 号（1982年）

アメリカ文化論（Ⅱ）……………金 勝 久

ジョイスのパドバ・エッセイについて……………茂 呂 公 一

アンドレ・マルローの最初の美術論

《La Peinture de Galanis》（1922）について

——マルローの初期の美術論の研究（前）——

……………堀 田 郷 弘

シャルル・モーロンの「精神批評」（2）……………越坂部 則 道

教育場面における夢の活用（Ⅰ）

——その背景としてのフロイトとユング——

……………細 部 国 明

身・語・意の三業（tīṇi kammāni）と carita, saṅkhāra, samācāra

……………池 田 練太郎

詩的コスモゴニーへの論理

——ランボー詩の内的世界——

-川那部 保 明
 ハイデガー先生の想ひ出.....小 野 浩
 [研究ノート]
 俳諧連歌における謡曲の文句取り(一).....黄 色 瑞 華

第 10 号 (1983年)

ウィトゲンシュタイン：太洋の測量技師

——逆限定のパトス——山 口 勲

アメリカ文化論(Ⅲ).....金 勝 久

ジョイスのディケンズ・エッセイについて.....茂 呂 公 一

教育場面における夢の活用(Ⅱ)

——夢と宗教——細 部 国 明

Zur Entwicklung der deutschen Sprache in der DDR

.....Kuniomi Uchimura

『失われた時を求めて』における作中人物の出現と

話者のまなざし北川原 哲 夫

カミュと〈他者〉.....村 岡 正 明

[書 評]

(Ⅰ) LE DASAVATTHUPPAKARANA

Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE

(Ⅱ) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA

Texte pâli et traduction par Jacqueline VER EECKE

.....森 祖 道

[研究ノート]

渭浜庵執筆一茶.....黄 色 瑞 華

第 11 号 (1984年)

〈人間=記号〉論について西 勝 忠 男

教育場面における夢の活用(Ⅲ)

——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判——細 部 国 明

Frühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst - Ⅲ.

Die Herausbildung der(verbalen) Satzklammer.....藤 井 明 彦

Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den
sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR.....Stefan Wundt

知と自我

- 初期シェリング哲学の原理について——小 林 保 則
歌人 安江不空.....小 野 浩
『我春集』の序文をめぐって黄 色 瑞 華

第 12 号 (1985年)

ロンゴバルディ 侵住建国をめぐる諸問題

- イタリア民族形成史の一こま——森 田 鉄 郎

教育場面における夢の活用 (IV)

- ユングの宗教夢解釈に対するボスの批判——細 部 国 明

ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学

- Timber* の詩論を通じてジョンソンの詩を読む——平 松 哲 司

Die Kommunistische Erziehung und ihre

- WertvorstellungenStefan Wundt

シャルル・モーロンの「精神批評」(3).....越坂部 則 道

- 『我春集』から『株番』へ黄 色 瑞 華

「研究ノート」

農村集落における精神的ムラ境の諸相

- 茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として——小 口 千 明

ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権

- 「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説——畑 尻 剛

グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉.....鈴木 敏 夫

第 13 号 (1986年)

- 巻 頭 言.....石 南 國

“鏡”の論理から“魂”の論理へ

- 人間記号論序説——西 勝 忠 男

北欧中世 (スウェーデン) における自力救済慣行

- 実力社会の一考察——伏 島 正 義

潮湯の偏在性に関する地理学的予察

- 日本における海水浴普及との関連から——小 口 千 明

- ジョイスの“Exiles”における受難の思想について.....茂 呂 公 一

| | |
|--|----------------|
| Eloisa と Belinda の相違 | 石 川 郁 二 |
| 状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に 見られる共通特性..... | 鎌 田 精三郎 |
| R. Huch の〈スイスの春〉覚え書 ——研究ノート——..... | 鈴 木 敏 夫 |
| J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって | 藤 井 明 彦 |
| ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と 人物描写について..... | 飯 塚 英 一 |
| エアリエルの材源再考..... | 門 野 泉 |
| パトナム, シドニーの <i>sprezzatura</i> 精神 ——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ ヒューマニズム」の対峙—— | 平 松 哲 司 |
| The Dimensions of the U. S.—Japanese Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue | 古 川 友 章 |
| 神話概念の変遷Ⅱ ——翻訳語としての『神話』をめぐって(上)——..... | 天 沼 春 樹 |
| 自己言及のかたち ——『イリュミナシオン』『生活Ⅲ』と「生活Ⅰ」を読む | 新 宅 巖 |
| フローベールにおける登場人物と場面..... | 大久保 政 憲 |
| 『息 子』 | アルトゥール・シュニッツラー |
| ——翻 訳——..... | 春 日 正 男 |
| 『バシュラルと過したひと夏』とその研究(Ⅰ)..... | 越坂部 則 道 |
| アンドレ・ジッドの方法(Ⅵ) | 陶 山 暎 |
| アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書—— 絵画における悲劇的表現をめぐって」の翻訳と解題..... | 堀 田 郷 弘 |
| 「シルス・マリーア」をめぐって | 河 内 信 弘 |
| 日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策 | 大豆生田 稔 |
| 歌人 安江不空・序(3) ——大和歌の問題—— | 小 野 浩 |
| 『志多良』の序文をめぐって | 黄 色 瑞 華 |
| 高橋克巳論——虚無僧のパトス—— | 山 口 勲 |